

2017年7月発行

## 院内感染を防ぐために！

けんせい歯科 歯科衛生士 朝倉 宏子



### 歯削る機器 半数使い回し・・・院内感染恐れ

2017年7月2日読売新聞より

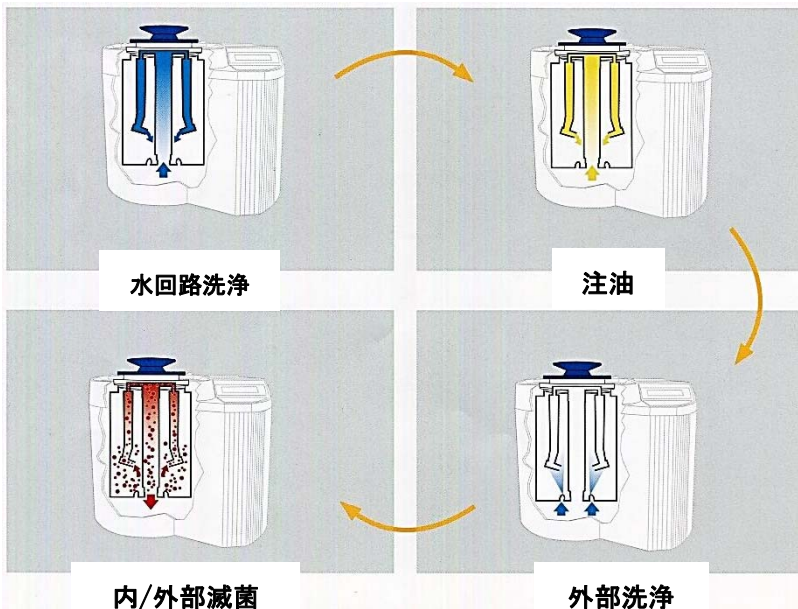
2017年7月2日付の読売新聞に、右記のように「歯を削る医療器械を患者毎に滅菌せず、使い回ししている可能性があることで、院内感染のリスクが根強く残る現状がある」という記事が掲載されました。

### けんせい歯科では、患者毎に交換して使用しています。



当院では、院内感染を防ぐため「DACユニバーサル2：コンビネーションオートクレーブ」を導入しています。切削器具（ハンドピース）の内部と外部を洗浄・滅菌し、患者毎に交換して使用しています。ご安心して受診して下さい。

DACユニバーサル2によるメンテナンスの流れ



参考「DACユニバーサル2のパンプレット」より

◆使い回しされていた可能性のある医療機器

全国の歯科医療機関の半数近くが、歯を削る医療機器を患者ごとに交換せずに使い回している可能性があることが、2017年の厚生労働省 研究班（代表：江草宏・東北大学歯学部教授）の調査でわかった。使い回しが7割弱だった5年前の調査に比べて改善したものの、院内感染のリスクが根強く残る現状が浮き彫りになった。

## 歯削る機器 半数使い回し

### 院内感染恐れ

■5年前からは改善

調査は、ドリルを取り付ける「ハンドピース」と呼ばれる柄の部分の管理について尋ねたもの。治療時に口に入れるため唾液や血液が付着しやすく、使い回せば細菌やウイルスを次の患者に感染させるリスクがある。日本歯科医学会の指針は、患者ごとに機器を

交換し、高温の蒸気発生装置で滅菌するよう定めている。調査は日本歯科医師会の会員1000人に郵送で行い、17年2月までに700人から回答を得た。機器について「(全ての)患者ごとに交換」と答えたのは52%。5年前の12年調査(31%)から21%増えた。

一方、指針に沿わずに「感染症患者とわかった場合」血液が付いた場合などに交換するとしたのは、それぞれ17%、16%。13%は滅菌せずに「消毒薬で拭く」と回答した。

